

患者さんの状態を捉え、 早期回復に向けた 看護の提供を目指して

集中ケア認定看護師 新田 美喜子

私は集中ケア認定看護師の認定を受け、13年目になります。集中ケア認定看護は集中治療領域において、重要かつ集中治療を必要とする患者さん・ご家族への看護を行います。現在は外科・消化器内科病棟に勤務し、主に術後や消化器疾患の看護に携わっています。患者さんが安心して早く元の生活に戻れるよう持病や日常生活状態を把握し、医師や診療看護師、リハビリなど多職種と連携を取りながら関わっています。

更に院内急変対策チーム(RRT)・呼吸サポートチーム(RST)の一員として、各部署をラウンドし横断的な活動も行っています。患者さんの状態が変化する時はまず、呼吸や意識状態の変化が見られます。状態が急変すると、全身状態の回復は困難になることが多いため、異常の早期発見が大切になります。そのため院内で患者さんのバイタルサインを点数化して、状態変化を知らせるツール(早期警告スコア:NEWS)を導入し、点数結果に応じて医師や部署の看護師とともに状態把握を行うようにしています。高齢で合併症のある患者さんも多いため、日々の変化を捉えることは重要で、部署内で情報の整理や気付きに繋げ、日々の看護実践に活かせるようにしています。

患者さんの中には呼吸状態や全身状態が悪くなり、人工呼吸器を装着することがあります。人工呼吸器装着中の患者さんは細やかな観察と重症化を予防するケアが必要です。患者さんが安全に過ごせ、適切な時期に人工呼吸器から離脱できるようチームで介入しています。

また1、2年目看護師に向けて患者さんの変化に気付けるようフィジカルアセスメントの研修を行っています。ラウンドを通して看護師が困ったことや気になったことがないか確認を行いながら、知識や実践



を身につけることができるようサポートしています。

認定看護師の活動を通じて、早期回復に向けた援助や状態変化に気付ける看護師を一人でも多く育成できるように取り組んでいきたいと思っています。



フィジカルアセスメントの研修

